

ホットライン社会科

第83号 R5. 8. 31

発行 岐阜県小学校

社会科研究部会

令和5年度 岐阜県小学校社会科研究部会 夏季研究協議会

研究主題

よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習
～子どもが社会とつながる授業を通して～



岐阜県小学校社会科研究部会 研究部

8月17日（金）に令和5年度夏季研究協議会をオンライン形式で開催しました。県内各地から256名の先生方にご参加いただき、研究主題「よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習」について、県小社研の理論と各地の先生方のご実践をもとに学び合うことができました。

全体会では、研究部主任より、今年度の研究内容と重点について説明いたしました。昨年度の飛騨地区大会での成果をもとに、次の

2つを重点として進めていくことを確認しました。

○研究内容1—（2）「意識の連続性」と「指導と評価の一体化」を大切にした単元構成

子どもたちが意識を連続させて、社会的事象を自分のこととして捉えることができるようにするため、子どもの発言を具体的に想像して単元構成する。

また、評価規準を明確にして子どもたちの姿を見取り、子どもたちの実態に合わせて指導・援助を充実させる「指導と評価の一体化」を大切にする。（県小社研 研究内容1にある図表3・4の「学習指導案作成の際の留意点」や「問題解決的な学習プロセス」を参照）

○研究内容3—（1）社会とのつながりに気付くことができる指導・援助と評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面について、単元前段で問題解決に向けて見通しをもっている姿や、単元中段で自分の学習状況を確認し、さらに調べてみたいことを明らかにしている姿など、評価の場を広げて考える。（図表14において、評価する姿、評価の場、教師の指導の在り方参照）

学年別協議会では、単元構成の工夫、ICTの活用、見届けの在り方など、子どもたちの姿をもとに具体的な提案がなされ、多くの先生方と討議をすることができました。また、指導助言者の先生方からは、次のような点について評価いただきました。

- ICTの活用が充実し、授業実践に生かされていること。
- 思考ツールを利用して、学びを深めようとしていること。
- 選択・判断の授業、調べ学習が複数位置付いた単元等、多様な単元構成がされていること。

今回の学年別協議会における協議内容や指導の詳細については、「社会科教育」で紹介します。（「社会科教育」の発行は、今年度よりHP上での掲載となります。）

お忙しい中、提案いただいた先生方、司会や記録を含めた運営にご協力いただいた先生方、本当にありがとうございました。今後とも、県小社研の研究内容を少しでもご活用いただき、「子どもが社会とつながる授業」が県内各地で展開されることを願っております。なお、夏季研究協議会当日は、通信機器のトラブルにより、ご迷惑とご心配をおかけいたしました。今回起きたトラブルへの対応については、今後事務局で検討いたします。